

令和4年度第2回海岸工学委員会議事録

開催日時：令和4年11月9日（水）18:00～20:00

開催場所：第2会場（ヴェルクよこすか6階の第1会議室）＋ZOOM会議

出席者：佐々木委員長，森副委員長，北野幹事長，柴山相談役，青木相談役，岡安相談役，荒木（大阪大），有川（中央大），五十里（京都大），入江（大阪大），内山（神戸大），榎田（金沢大），遠藤（大阪公立大），太田（鳥取大），織田（大成建設），柿沼（鹿児島大），加藤（国総研），加藤（豊橋技術科学大），川崎（KK），小竹（東洋建設，宮本代理），猿渡（北海道大，函館高専宮武代理），嶋原（防衛大），下園（東京大），末岡（東亜建設工業），田島（東京大），高川（港空研），坪野（電力中央研究所），西畑（五洋建設），信岡（茨城大），原田（京都大），安田（関西大），山城（九州大）山中（徳島大），李（広島大），渡部（北海道大），ZOOM参加：秋山（国土技術政策総合研究所），岩前伸幸（鹿島建設），越村（東北大学），瀬戸口（八千代エンジニアリング），白木喜章（エコー，小野代理），鈴木（横浜国大），田中（国交省海岸室），中村（水産庁整備課），中村（名古屋大），山本（水産研究・教育機構），渡辺（秋田大）

議事録：渡辺（秋田大），北野（幹事長）

資料：

- ・ 令和4年度第1回海岸工学委員会議事次第（資料1）
- ・ 事前回覧資料（資料2）
- 前回議事録の確認（WEB公開済）
- ・ 前回幹事会の議事録を確認した。

■海岸工学論文集第69巻発刊準備状況について

- ・ 下記の通り第69巻の報告があった

第1段審査 登録論文数：248編，通過論文数：226編

第2段審査 通過論文数：188編（不採択：0編，辞退0編）

第2段審査以降 通過論文数：185編（不採択：2編，辞退：1編）

※海岸工学講演会での発表数：226編（本論文あり：185編，要旨のみ：41編）

- ・ 論文集編集における現状・検討課題

Extended Abstractの提出時期を本論文最終原稿提出時期にあわせる方向で検討すること，題目・著者変更ルール（不可であるが主査が提案した場合は可）の確認・周知を徹底すること，システムと論文記載名のチェックを周知徹底すること，Gmailへ届かない（Gmail側で棄却されるメールがある）ことがあるので周知などの対応が必要と考えていること，および2023年度から新土木学会論文集へ統合されることが報告された。

- ・ 最終判定の明確化とカテゴリー

判定の基準およびその対応について周知・統一することを報告された。

出来るだけ C 判定として判断する。

システムと論文記載の氏名が異なるので確認をする。

・著者負担金と論文集 DVD 価格

今年度はハイブリッドの費用が必要となり、負担金が 35,000 円で支出・収入が、ほぼプラス・マイナス・ゼロの状況となっている。なにか不慮の支出があると赤字のため、負担金を 37,000 から 38,000 円に値上することを考えている。講演のみの場合の負担金も若干値上げを考えている。→負担金の値上げの金額は、執行部に一任することが確認された。

■海岸工学論文賞および論文奨励賞について

・海岸工学論文集賞・奨励賞について、海岸工学講演会 1 日め開会式に行われたことが報告された。また、プログラムに明記することで多くの人に周知したことが報告された。

■第69回海岸工学講演会の準備状況について

・昨日から海岸講演会が開始したことが報告された。本日のハイブリッドで少しトラブルがあったが円滑に進んでいる。現地の人数は202であった（第3セッション）。オンラインの参加者は250名であった（現地と重複有）。

・参加の申し込みは現時点で講演会1017名、企画246名、見学会40名であった。

（追記：講演会後に、講演会1074名、企画254名、見学会40名で確定）

■第70回海岸工学講演会の準備状況ならびにAPAC2023の進捗状況

実行委員会：後藤委員長（京大）、森・志村・宮下（京大防）、原田・五十里・清水（京大）、荒木・佐々木（阪大）、遠藤・中條（大阪公立大）

後援：京都府・京都市（未定）、国土交通省近畿地方整備局（未定）

日程：2023年 11月14（火）（前日の準備）、15（水）、16（木）、17（金）

*講演会+APAC2023 同時Hybrid開催、懇親会見学会なし。

会場：京都テルサ（京都市南区）

以下の説明、報告があった。

・予約済であり、今後のキャンセルには違約金が掛かる。

・wifiは司会と発表者以外は個人で用意してもらい、テルサのwifiは使わない。

・2010年から会場の値上げとハイブリッドの準備分、予算が上がっている。

・会場費は433万の見込み。この数年間の論文採択数の減少傾向から減収と支出増のダブルパンチである。会場費の支払いについては検討する。

○APACについて

・9/1にHPを公開済みである。

・11/1~アブストラクト投稿が開始された。図なしの文字のみである。

- ・海講への投稿もお願いしたい。
- ・海講のシステムを応用して申し込みを作成した。
- ・エディターは田島先生，佐藤先生，青木先生にお願いした。
- ・参加者数は不明なので一律300ドルとした。9/2にcecomで連絡した。
- ・組織は関西のみでなく全国で構成することとした。
- ・トータルで530万程度の見込みである。

以下は質疑

- ・収支はAPACと海講は別にするのか？→収支は別である。
- ・ハイブリッドの資材を購入したらどうか？ →今回は購入しない。今後については継続して検討する。
- ・部屋数を減らしたらどうか？→全館予約の規定に従って予約しているため，現時点での変更は難しい。
- ・Springer 出版によるサイテーション・インデックス付き（ESCI）のe-proceedings では，200編はフルペーパーで揃えたい。

○第71回海岸工学講演会について

- ・これまでの開催地を確認し，2024年度は，秋田で開催されることが報告された。
- ・実行委員長を東北大学田中 仁先生とする実行委員会が組織され，準備にとりかかることが報告された。

■第57回水工学に関する夏期研修会(Bコース)開催報告

日程：2022年9月5，6日

会場：東京大学本郷キャンパスオンサイト+オンデマンド研修会

受講者申込数：176（対面56，オンデマンド120）名（Aコース102名（対面30），Bコース74名（対面26名）

担当：Aコース小田僚子先生（千葉工大），Bコース下園委員（東大）

出版物：講義集（現在販売中）

- ・オンデマンド研修会，講義資料電子化したことによりA，Bどちらにも参加できるようになった。
- ・コロナのため対面での参加者は少なかった。
- ・画質等は業者に発注し，満足度が高かった。
- ・オンデマンド形式については肯定的意見・継続希望のコメント多数であった。
- ・改善に関しては，参加費を安くしてほしい，オンデマンド期間をもっと長くにとって欲しい，対面での質疑応答をオンデマンド動画に入れて欲しい等の意見があった。

■第58回水工学に関する夏期研修会(Bコース)開催について

日時：2023年8月31日，9月月1日

会場：札幌

内容：国際展開について予定.

- ・対面のみで実施する予定. (オンライン参加者が多い分, 現地参加者が少ないのであれば, 地方開催の意味があまりないのでは?)

■Coastal Engineering Journal について

- ・ Editorial BoardとCEJ小委員会のメンバーを少し入れ替えた.
- ・ インパクトファクターが2.032 (2019) , 3.216 (2020) から3.289(2021)になった.
- ・ CEJ2022 Mar., Vol. 64, Issue 1: Coastal Hazards and Risks due to Tropical Cyclones (Guest Editors: Yoshimitsu Tajima and Andrew B. Kennedy) 発刊 (12編) .
- ・ CEJ2022 Jun., Vol.64, Issue 2: : 10編 (3編テクニカルノート, そのうち1編がDiscussion Paper) を発刊.
- ・ CEJ2022 Sep., Vol.64, Issue 3 (暫定) : 6編で発刊予定.
- ・ 2023 年CEJ Special Issue として, Coastal Disasters in Asia: Forecasting, Uncovering, Recovering, and Mitigation (Guest Editors: Hiroshi Takagi and Mohammad Heidarzadeh) を査読中 (投稿数18編, 受理6, 審査中4) .
- ・ 2024 年CEJ Special Issue として, Progress of Ocean Wave Measurements (Guest Editors: Hitoshi Tamura and Clarence O. Collins) を企画されており, 現在, 論文受付中. エントリー募集中.
- ・ 2022年125編投稿 (11/9) である.
- ・ 過去の最大が130編なので, 今後の投稿を考えると今年は過去最大になりそうである.
- ・ 国別投稿数について, さまざまな国からの投稿が増加, 日本からの投稿も期待.
- ・ Coastal Engineering Journal Award 2021&JAMSTEC中西賞, CEJ Citation Award 2021, CEJ Review Award 2021の授賞者 (6月の委員会で承認済, CEJ公式HPで発表済み) の報告があり, 林さんと北野幹事長で, 盾と賞状の準備と発送を進めている.
- ・ 第69回海岸工学講演会開会式にて表彰. 楯 (各賞2台) ・ 賞状 (人数分) 発送済み.
- ・ Reviewer Awardは賞状のみをPDFで電子送付済み.

■沿岸域研究連携推進小委員会

- ・ 新体制メンバーの紹介 (13名の継続) があった.
- ・ 海岸工学講演会の開催期間中に委員会の実施予定 (意見公開, 企画など) .
- ・ WEBページでの委員名の更新した.

■広報・出版・WEB開催小委員会

- ・ 海岸工学に関する本の紹介が3冊公開されています.

- ・プログラム・DVD に関して，企業展示と業界案内の件数が減少している。
- ・DVDの業界案内の4. を計測・観測機器および“実験装置”と変更した。
- ・オンラインに関わるZoomのうち，昨年と同様，ビジネスのライセンスを購入。
- ・海岸工学の広告欄にて，APAC2023の論文投稿の促進を行うこととした。
- ・DVDの分類を変更した。

■研究小委員会，研究会，WGの活動について（事前送付）

- 沿岸まちづくりにおける経済学的手法検討小委員会
 - ・東伊豆の視察＋意見交換会（報道）および徳島県，高知県および東伊豆町と協議中。
- 沿岸災害デジタルツイン研究小委員会
 - ・メンバー応募により61名，6WGで発足。Elsevier Book Chapter2024に執筆予定。
 - ・土木学会重点課題に海岸委員会として応募する。
- 波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会（事前送付のみ）
- 沿岸域における気候変動適応策に関する研究会（事前送付のみ）
- 地域研究活性化WG（事前送付のみ）
- 波動モデル研究会（今回の回覧資料は特に無いとの連絡）

■水工学委員会 水理公式集例題集編集小委員会（山城）

- ・水工学委員会水理公式集例題集小委員会において水理公式集例題集の改訂を進めており，2023年4月1日最終原稿提出，担当者よろしくお願ひします。
- ・例題集にはプログラムを含む。プログラムについては著作権の確認が必要で現在ほぼ各確認作業は終えている。

以下は質疑

- ・前回の水理公式集例題は現在販売されていないので，引用（のみ）で表すと内容の確認が難しくなるため，内容が分からなくならないか？ →分かるように，内容を直接示すような引用を統一して示す。

■海岸工学論文集の投稿ならびに査読のあり方

- 幹事会での議論の現時点での決定事項の報告など
 - ・発表と論文は切り分けて，発表の決定と論文掲載の決定の第2段階で今後行うことが承認された。

以下は質疑

- ・国際会議形式（例えば，APAC）のようにアブストラクトのみ評価するのか？
→第1段階審査は，テキストのみの（海岸工学講演会に相応しいものかスクリーニングのような）審査となるだろう，その分，論文内容については，EMを用いてしっかりと査読を行う。ただし，EMは投稿論文全体のスケジュール管理ができない。この点は，水工学が

先行して、今年行われており、参考にしたい。

○土木学会論文集編集委員会・編集調整会議報告，各種サーバの更新など

- DVDの配布・販売については，講演会参加者に限定する検討が必要があり．
- サーバ攻撃が激しくレンタルサーバへ移行したい旨が報告され承認された．12月上旬を目途に更新したい旨が報告された．

■その他

- 次年度の海岸工学論文集編集小委員会などの体制が報告された．

海岸工学論文集編集小委員会小委員長 山城 賢 (2023～)

海岸工学論文集編集小委員会副小委員長 下園武範 (2022-2023)

海岸工学論文集編集小委員会副小委員長 中村友昭 (2024-2025)

サーバーセキュリティ対策特命WG主査 川崎浩司 (2022～)

- 土木学会の事務担当が，林さんから那須さんへ交代されたことが報告された．

以上